



「前期を終えて」 PTA会長 K・N

令和6年4月、希望を胸に置戸高等学校へ入学された1年生の皆さん、前期を終えた今の心境はいかがでしょう。少しずつ学校や寮での生活も慣れてきたところだと思います。置戸高等学校での学びは、「福祉」がメインであり、他人を思いやることが大切になってきます。これからも先輩の姿を見て学び、良いところを吸収してください。2年生は前期中に実習に向けての試験が続いていたかと思います。休日にも同級生同士で練習していた光景を目にしました。決められた時間と丁寧さを求められるためか、遅くまで練習して試験に臨み、無事クリアしてきたのではないのでしょうか。後期からは長期の実習が予定されていますので、目標を定めて充実した実習となるよう心掛けてほしいです。3年生にとっては今年度が置戸高等学校で生活する最後の1年ですね。置高祭では習ったことのない楽器を一から練習し、発表できるまでに至った姿は本当に素晴らしかったです。他にも跳び箱を使用した運動神経抜群の4人による演技も目を引くパフォーマンスでした。人間ばん馬も先生チームを引き離し1位を獲得するなど、思い出に残る置高祭になったのではないのでしょうか。後期からはそれぞれが目標とする進路に向けての勉強となりますし、同級生との生活も残り少なくなってきます。1日1日を大切に、悔いの残らない学校生活にしてください。

最後に、A校長をはじめ、置戸高校教職員の皆様、生徒に対し、指導・助言ありがとうございました。これからも悩んでいる生徒への心の拠り所として、温かく接していただけるようこれからもよろしく願いいたします。そして置戸高校生徒を支援していただいている置戸高校支援対策協議会、校外活動等でお世話になっている置戸町の皆様、PTAを代表しまして深く感謝を申し上げます。今後も置戸高校へのご協力をよろしくお願いいたします。

「置戸高校の矜持」 校長 A・K

保護者の皆様及び学校関係者の皆様には日頃より、本校の教育活動に深いご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。さて、早いもので4月に一年生を迎え入れて半年が経ちました。生徒達はそれぞれ自分の目標に向け日々成長を続けており、その姿を喜ばしく見えています。また、学校課題の一つである、来年の生徒募集の活動についても、生徒のアイデアによって、おけと夏まつりに福祉科ブースを出展したことや、公開授業を実施し、多くの町民の皆さんにご覧いただいたことで福祉科をより知っていただく機会にもなり、町民の皆さんとの会話のきっかけや、関わり方への一層の深まりに繋がったと思います。更に、道東の複数のお祭り会場でも置高キャラバンを展開しました。これら多くの取り組みにより現在、9月14日に実施のオープンスクールへ参加する中学生は23名となりました。今年度の生徒の取り組みが、中学生と保護者の心を動かし、置戸高校に関心を持っていただいた結果であると考え、今後もチーム一丸でチャレンジ精神を持ち続けていきたいと思っております。本校は普通科として開校ののち、生活福祉科（現在の福祉科）への転換後、全国唯一の福祉科単置校として現在に至っています。来年度からは、介護福祉士コースと、多様性や国際性を養う普通科寄りのコースを新設して新入生を迎えます。

結びに、これからも、北海道における福祉科のリーディングハイスクールとしての使命を誠実に果たし、普通科と福祉科の合わせて4044名の卒業生を輩出してきた本校の伝統を継承しながら、新しい置戸高校を創造して参りますので今後とも変わらぬ、ご支援をお願いいたします。

「寒くて遠い網走の方の高校」が
「優しく温かな置戸の高校」に変わりました」

1学年代表 F・K

今年の入学生は、全員が寮生でした。

8月、地域みらい留学フェスで自信をもって自分の学校を紹介しているのは1年生でした。

半年前、福祉科で学ぶと覚悟を決めたとはいえ、遠い地で歩み始めるには、多くの支えが必要でした。不安な中、置戸高校の案内は「国家資格を取るのは大変ですから一人一人サポートします。親元を離れ不安があっても当然です。町からも補助金や給食を提供していただけます」と、環境をしっかりと整えて迎える大人の責任感と強い優しさを感じました。

合格後は先生方だけでなく、優しく出迎えてくれる寮の先輩方や、雪の様子を伝えてくださる置戸町の方、澄んだ空気と規則正しい生活にも支えられ、ひと月ごとに笑顔と自信が増えていきました。半年でこれだけ行動力を付けていただいた事に、一生徒の親として皆様の支えを大変ありがたく感じております。

皆様への感謝を忘れずに、仲間と共に充実した時を過ごしてほしいと願っております。

参観日



介護実習



施設見学



自衛隊基地見学



外部講師による講義

進路実現に向けて

進路指導主事 M・R

7週間の介護実習を終え、9月11日（水）から再び学校での学びが始まりました。しかし、ほっと一息つく暇もなく、進路実現に向けて応募書類の記入や面接練習、小論文対策などに励んでいるところです。

9月12日（木）に行われた進路出陣式では、一人ひとりが進路に対する決意を表明し、上西組の皆で進路実現のために頑張っていこうという熱い気持ちを感じることができました。

3年生は、早い時期から進路意識を持ち、進路ノートを作ったり履歴書書きに挑戦したりなど、前のめりな姿勢でこれまで取り組んできました。最後まで粘り強く取り組み、夢を掴んでほしいと思います。そして今後の学校生活や社会人になっても自らの意思で主体的に行動できる人であってほしいと思います。

介護実習報告

福祉科主任 O・R

今年度の前期を振り返り、外部実習や校内実技など乗り越えなければいけない壁にぶつかりながらも自分たちの力で乗り越え、大きく成長してくれたと思います。外部実習では7週間という長期の実習の中、積極性や専門的知識・技術だけではなく、社会人としての経験から物事をみる視点や人との関わりなど人間として大きく成長できたと思います。2年生は校内実技から、基礎基本の定着だけではなく、協力する大切さや利用者の方へ関わる姿勢など初めての入居施設での外部実習に向けてクラス一丸となり頑張っています。1年生も施設見学等を通して少しずつ介護について学んでいます。

どの学年も慌ただしい中でも学ぶ意識を忘れず、諦めずに挑戦する気持ちを忘れず、壁に立ち向かっていく姿は本当にたくましく、置戸高校の生徒としてとても立派でした。

学校生活の様子



生徒総会

高体連壮行会

学校祭

介護技術コンテスト

意見体験発表大会

PTA 事務局から

令和6年度 会務(活動)報告・予定

年月日	記	事
R6. 4月9日	令和6年度 入学式(川村会長挨拶)	(本校体育館)
R6. 4月27日	授業参観、PTA総会、PTA役員顔合わせ、保護者懇談会	(雁戸高校)
R6. 5月27日	北海道高等学校PTA連合会北見支部総会 (出席者:)	(北見市)
R6. 6月8~9日	北海道高等学校PTA連合会(令和6年度第75回北見大会) (出席者:)	(北見市)
R6. 8月22~23日	全国高等学校PTA連合会大会(令和6年度第75回茨城大会) (出席者:)	(茨城県)
R6. 8月23日	令和6年度 第1回PTA役員会	(雁戸高校)
R6. 9月26日	PTA研修会	(雁戸高校)
R6. 9月26日	PTAだより 第131号発行	(町全戸回覧)
R6. 10月	令和6年度北海道高等学校PTA連合会北見支部研修会 (出席者:)	()
R7. 2月	令和6年度 第2回PTA役員会	(雁戸高校)
R7. 3月1日	第59回卒業証書授与式	(本校体育館)
R7. 3月1日	PTAだより 第132号発行	(町全戸回覧)
R7. 3月	令和6年度 第3回PTA役員会	(雁戸高校)

令和6年度 北海道雁戸高等学校PTA役員名簿

役職	氏名	備考
会長		2年
副会長		3年
		3年
監事・監査		2年
学年代表(1年)		1年
学年代表(2年)		2年
学年代表(3年)		3年
顧問		元会長
		校長
事務局長		教頭
校内理事		教諭
		教諭
		教諭
会計		事務長

今年度のPTA役員の皆さんです。
どうぞよろしくお願ひいたします。

北見大会 報告

令和6年6月8日(土)~9日(日)の2日間にわたり、北見市で北海道高等学校PTA連合会(令和6年度第75回北見大会)が開催されました。1日目には開会式と講演が行われ、2日目には分科会が実施されました。分科会では各テーマに基づいた情報提供の後、小グループに分かれて活発な意見交換が行われました。小グループ形式で、保護者と教員との間で自由な意見交換が行われ、交流が深められたように思います。

〈開会式〉

開会の挨拶に始まり、道高P連村井為教会長の主催者挨拶がありました。続いて、山野下大会実行委員長、全国高等学校PTA連合会山田博章会長からの挨拶がありました。さらに功績団体表彰、功績者、優良PTA広報誌(札幌西陵高等学校、小樽桜陽高等学校)の表彰及び感謝状の贈呈が行われ、それぞれの代表に表彰状と感謝状が授与されました。その後、来賓の北海道教育庁オホーツク教育局長桑原知己様、北海道高等学校長協会会長宮澤一様、北見市長辻直孝様よりご祝辞をいただきました。最後に村井会長が午前中に行われた総会で承認された新役員の紹介を行い、終了しました。

〈講演〉

講師:産婦人科専門医・タレント 丸田 佳奈 氏

演題:「北海道の若者が全国で活躍する未来への期待~地方出身を長所に!~」

網走市出身の丸田佳奈氏はテレビやラジオ等の多方面で活躍されており、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。演題にある「地方出身を長所に!」ということをご自身の経歴と重ね、積極的に様々な世界に挑戦していくことの大切さを語っていただきました。普段テレビ等を通してしか聴けない可憐かつ熱意ある語り口に、聴衆の会員の方も魅了されていたようでした。

〈第1分科会〉

北見芸術文化ホールを会場に「PTA活動と生徒指導・進路指導について」というテーマで開催されました。本校の教頭からの情報提供の後、北見藤高校の堀俊一校長をファシリテーターとして各グループで熱心な討議がなされました。「チームとしての学校」というキーワードに係わり、PTA活動が学校を支えるしくみについて各学校での特色あるPTA活動の取り組み等、いろいろな事例が紹介されました。参加者が自校のPTAにも取り入れる契機になる等の前向きな発言も聞かれました。

〈第2分科会〉

北見市端野町公民館を会場に「こどもの行動や気持ちを理解するためのコミュニケーションについて」というテーマで意見交換が行われました。最初に、北海道公立学校スクールカウンセラーの武智智子氏による情報提供があり、それを受けてファシリテーターである北見商業高校の服部毅PTA会長がテーマに沿って各グループの討議がスムーズに進行されるように話がされました。家庭教育という身近でかつ昔から変わらぬテーマでしたが、その重要さや困難さについて参加者同士で体験を交えながら熱心な討議が行われました。

〈第3分科会〉

「インターネット・SNSの仕組み その現状・真相・課題について」をテーマに、北見柏陽高校で開催されました。情報提供者の有限会社イワイ代表取締役の岩井孝浩氏にインターネットや、SNSについて専門的立場から現状や課題について説明をしていただきました。その後、常呂高校の森山忍校長が高校生を取り巻く情報メディア環境について、具体的な例を交えた話をされ、ファシリテーターとして意見交換のきっかけを作っていただきました。グループの討議の中では、各自の身近な例やトラブル、課題等について経験に即した話がなされ、時間が足りないほど熱心に意見交換が行われました。

〈第4分科会〉

北見北斗高校を会場に、「地域との連携による、地域に根ざした特色ある学校づくりについて」をテーマにして意見交換が行われました。情報提供者として、湧別高校地域コーディネーター(地域おこし協力隊)の田中那苗氏がご自身の活動を紹介しながら、地域と連携した取り組みについて話をされました。ファシリテーターは小樽商科大学グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門学術研究員の大湊亮輔氏が務められ、地域と高校との連携に係り、PTAの役割、期待されていること等について事例を交えながら、討議の進め方について助言をしていただきました。地域とPTA、学校との連携は地域事情等もあり、難しい面もありますが、参加者からは地域と一緒に取り組むPTA活動やアイデア等がいろいろと出され、盛り上がりを見せていました。

ぜひ「いいね」や「フォロー」
お願いします!!

ホームページ Facebook Instagram

